

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401012		
法人名	アトム商事 株式会社		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	札幌市西区西町北12丁目4番3号		
自己評価作成日	平成28年11月6日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも掲げている優しさと思いやりをもったケアを心掛けており、入居者様には穏やかで落ち着いた生活を送って頂けるように努めている。年1回事業所主催の夏祭りには地域の方々や入居者御家族様、関係者の方々などたくさんのご来場者を招き盛大に行われている。職員間の人間関係も良好で働きやすい職場環境となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170401012-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あすか」は地下鉄駅から徒歩で5分程の、コンビニエンスストア、ドラッグストア、レストランや公園、児童館などがある生活環境に恵まれた住宅地に建っている。建物の1階が1ユニットのホームで2階には同法人のデイサービスが併設している。平成16年の開設当初から認知症がある高齢者が地域の社会資源を活用して、その人らしい暮らしが出来るようにサービスと環境を整えている。法人代表者の住宅が隣接しており、夫婦で町内会役員や民生委員を引き受けて、地域に根差した運営を行っている。デイサービスと合同の夏祭りを盛大に行い、近隣住民や関係者を招待し、保育園児、中学生、ボランティアの催しを家族と共に楽しんでいる。健康面では2カ所の訪問診療の協力医と関係を築きながら看取りも実施している。管理者は研修の情報を収集して職員が内外の研修で学ぶ環境を作り、情報を共有してサービスの質に向けて職員と共に取り組んでいる。計画作成担当者を中心に、担当職員が3ヵ月毎にモニタリングを行い、センター方式シートで情報を追記して利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成している。日々の記録なども詳細に記載して見直しにつなげている。利用者の意向を尊重したケアを行い、排泄の自立支援や寒い時期には事業所内で歩行や運動をして自立に向けた暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の見やすい所に掲示したり、月1回の職員会議にて唱和するなどして共有している。理念に沿ったケアを心掛けている。	理念の中に「心と心の和を地域全体に広げていく」という文言があり、法人合同のお祭りでは理念を意識して住民との関わりを実践している。会議の際に、交代で職員の先唱に続き全員で理念を唱和して内容を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が同町内に住んでおり、日常的に交流している。年1回行われる事業所主催の夏祭りにはたくさんの地域の方々が登場され交流するきっかけとなっている。	毎年法人合同の夏祭りを盛大に行い、町内の住民と交流する機会になっている。散歩中に近所の人と挨拶を交わしたり、紙おむつ類を頂くこともある。昨年も保育園児の来訪があり、子供と交流する楽しい機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の勉強会などを議題に取り上げるなど地域の方々へ認知症の人の理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではその都度グループホームの現状を報告し、話し合いが行われている。	会議は2ヵ月毎に開催し、2回はデイサービスと合同で行っている。老人クラブの代表、地域包括支援センターの職員、近所の知識人、家族の参加を得て、行事、防災、感染症、介護保険制度、外部評価、認知症などを議題に意見を交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事などがあった際には電話にてその都度聞いている。	管理者は、書類提出などで分からない時は主に電話で確認している。区グループホーム管理者会議に参加し、研修内容や情報を収集して運営に反映させている。ケアマネジャーは判断に迷う時は、市役所に出かけて担当者に相談する事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は家族の了承の上、安全の為やむおえず行っている。ホーム内では身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束禁止の内部研修を行い、事例を基に拘束をしないケアを話し合っているが、「禁止の対象となる具体的な行為」の11項目については職員間で確認されていない。安全面から玄関に鍵を掛けているが内側から開けられるように工夫し、外に出たい時は意向に沿って対応している。	職員採用時などの機会に、マニュアルに沿って身体拘束禁止行為の11項目についても話し合い、年に1回は全員で確認することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で理解を深めている。虐待が見過ごされることが無いよう、日々の様子や入浴時の全身チェックなどを行っている。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で理解を深めている。実際に成年後見制度を利用されている利用者があり、必要に応じて連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書や重要事項説明書などを読み合わせ合意の上、契約に至っている。疑問点などにはその都度お答えし、解約の条件等もその際に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見はその都度連絡ノートなどで共有し、玄関には御意見箱を設置し、苦情受付窓口も設置している。また、入居の際にお渡しする重要事項説明書には第三者苦情申し立て機関を案内している。	毎月、写真を載せた個人ごとのホーム便りを家族に送り、来訪時には意見を聴く姿勢で心配事に対応している。介護計画の見直し時には電話で意向を確認している。意見などは連絡ノートやケース記録に記載して共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務にて職員から意見や提案を聞く機会が多く、全体的には月1回の職員会議で職員全員で話し合い方向性を決めている。	職員会議で介護計画のモニタリング、薬などの医療情報を確認、業務の必要な備品などで意見を交換している。会議には代表者も参加しており、職員の意向を把握して可能な事は即対応している。管理者は必要に応じて個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加したり、日々の業務の中で職員の意見に迅速に対応し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内、外での研修を受ける機会を設けている。初任者研修や実践者研修など職員個々にあった研修の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区管理者会などで交流する機会がある。具体的には他グループホームの職員を交えての研修や食事会などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談にて本人から困っている事や不安なことを聞き出し、本人が少しでも安心した生活が送れるよう初期の対応やケアプランに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等からの困っている事や要望を聞き出し、それらに沿ったケアを行っている。家族の面会なども制限せず、積極的に来て頂けるよう働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてセンサーやポータブルトイレを貸し出すなど、その時必要な支援に努めている。場合によっては他のサービスの利用も促している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と生活を共にさせていただくという観点から、支援し、場合によっては支え合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などには制限はなく、積極的に受け入れている。家族は共に本人を支える一員として協力体制を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くはないが、本人の馴染みの人が訪問してきたり、家族の支援により、馴染みの場所へお連れするなどの支援を行っている。	親族や友人が来訪しており、宗教関係の知人が送迎し毎月出かける方もいる。家族の協力でお墓参りや友人宅に遊びに行ったり、実家の小樽と一緒に行くこともある。趣味などは介護計画に組み込んで継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で口論になることもありますが、職員が仲裁に入ったり、距離を置くなどの対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて医療機関等への情報提供や入院先へお見舞いに行ったり、葬儀に参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合わせた生活を送っていただくよう支援している。レク等はこれまでの個々の嗜好に合わせたものを行っている。	会話で意向を引き出したり、普段の様子や表情から想いを汲み取って介護計画に反映させている。見直し時にセンター方式のシートに情報を追記し、変化がある時は更新して現状を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にセンター方式を本人または家族に記入して頂いたり、ケアマネージャーやソーシャルワーカーの情報を元に把握している。日々の関わりの中から本人の言葉などを記録に記入し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ思い思いの生活を送っている。今までと変わった事があれば記録や申し送り、連絡ノートなどで共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人に対して3ヶ月に一度職員全員でモニタリングを行い、より良いケアの為に意見交換が行われている。	3ヵ月毎に会議でモニタリング、評価を行い、本人や家族の意向を確認して介護計画を作成している。短期目標に沿って実施状況をチェックし、日々の記録でサービス内容の変化なども記載して、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はケアプランのサービス内容をに沿ったものとなり、次回のモニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の為にホームヘルパーを利用等柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導のもと年2回訓練が行われている。外出が困難な利用者には訪問美容を利用している等地域資源との協働に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人または家族の意向を最優先し、往診などには職員が付き添い日頃の様子を伝えている。	利用開始時に2ヵ所の医療機関の訪問診療を説明し、希望の訪問診療を受けている。内科以外の定期的な受診は基本的に家族が対応し、受診時に口頭や必要に応じて書面で医療情報を渡している。受診の結果をケース記録に記載している。	

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には必要に応じて日頃の様子や変化などを伝えている。その都度相談し、生活の中で反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には必要に応じて情報提供している。また、カンファレンスへの出席、病院関係者と連絡を密にとり早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取りの指針を読み合わせの上、家族に渡し共有している。	重度化の対応指針と看取り指針を作成し、利用開始時に説明して同意を得ている。状態に変化がある時は方針を再確認し、終末期に家族の協力を条件として看取りを実施している。職員は研修で学び、看取りケアの介護計画に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導のもと定期的に救急救命訓練を行っており、全ての職員が受講できる様計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民には運営推進会議等で協力を呼び掛けている。実際に避難訓練にも参加して頂いている。近隣の老人保健施設と避難場所としての協定を結んでいる。	年2回、日中を想定して同法人のデイサービスと合同で避難訓練を実施している。消防署の立会いで行っているが、今回は住民の参加が得られていない。災害時の備蓄品類は整備しているが、地震等を想定した訓練は今後の課題になっている。	次回には消防署や住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。また火災以外の地震等を想定し、事業所内の危険箇所や各ケア場面での対応を職員間で話し合い、防災マニュアルの整備にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思を尊重し、声掛けの際にも配慮している。利用者本位なケアが行われている。	呼びかけは「さん」づけとし、言葉遣いなどで気づいた点があれば業務の中で注意している。ファイル類は事務所の安全な場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出できる利用者には介護者が一方的に決めず、利用者の意思を尊重している。表出出来ない利用者は今までの関わりの中から希望を汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるものの、自室で過ごしたい方は自室で過ごして頂くなど、一人一人のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容室や訪問美容にて、定期的に散髪している。外出の際にはお洒落な服装を着ていただくなどの支援を行っている。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや下膳、食器拭き等を積極的に行っている。特に食器拭きは希望される方が多く、極力沢山の方に行ってもらえるよう支援している。	献立や食材が食材業者より提供されるが、月1回、業者と話し合って元のメニューに変更を加えている。利用者が盛り付けや食器拭きなどを手伝い、職員も一緒に同じ食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分はその人の嗜好に合わせたものとなっている。食事量や水分量は毎回記録し、個々の摂取状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔ケアが自力では困難な利用者には声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導の間隔を調整したり、排便が多い時間の時には少し長めにトイレに座って頂くなど、少しでも失禁を減らせる支援に取り組んでいる。	自力でトイレに行ける方は3分の1ほどおり、声かけや介助が必要な方は排泄チェック表でパターンを把握し、羞恥心に配慮しながら誘導している。全員、日中、夜間ともトイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり廊下歩行など便秘予防に取り組んでいる。主治医の指示のもと下剤のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっておらず、基本的には毎日入浴の支援を行っている。時間帯はある程度決まっており、利用者から違う時間帯のニーズがあれば検討していきたい。	毎日入浴可能で、午後の時間帯で各利用者が週2回程度の入浴をしている。拒否がある場合も誘い方を工夫して入浴につなげている。希望があれば同性介助とし、入浴時は会話や歌で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は思い思いの時間に自室で休息されており、夜間にはホームの前の道路の交通量も少なく、安心して眠れるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々のファイルに服薬している薬の種類や副作用などが記載されており、職員は共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションではそれまでの生活歴から本人が好むものを行って頂いている。字を書く事が好きな利用者には食事の献立を書いてもらうなどそれぞれの役割として担っている。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクではチョコレートファクトリーや外食へお連れしている。普段から買い物に同行していただいたり、散歩、夏場には外に洗濯物を干して頂くなどの支援を行っている。	日常的に周辺を散歩したり、近くのドラッグストアやコンビニエンスストアに買い物に出かけている。事業所前のテラスで外気浴も行っている。年間行事では、バイキングレストランやお菓子の工場、大型ショッピングセンター、花見などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人または家族の意向によって決定されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を貸し出したり、手紙やハガキをポストに投函する等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、開放的になっている。台所も近い為、食事を作る音やにおいを感じられ、家庭的な環境となっている。壁には季節の絵や写真が飾られている。	居間の前面のテラスには日よけテントが掛けられ、利用者が気持ちよく外気浴を行うことができる。共用空間の壁には、年間を通した行事の写真や、利用者の習字、貼り絵、塗り絵等の作品、季節の装飾、絵画などがあり、楽しい雰囲気を作っている。温度や湿度も調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などは気の合った利用者同士で食事できるよう配慮されている。ソファでくつろがれたり、利用者同士で談話されるなど、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に極力使い慣れたものをお持ちいただくよう促している。	居室入口に表札や寄せ書き、作品などを飾り、自分の部屋が分かり易いよう工夫している。室内にはテレビやたんす、ベッド、鏡台、戸棚など馴染みの家具を自由に持ち込んでいる。家族の写真や寄せ書きなども飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっており、安全に生活が送れるようになっている。居間から廊下が見渡せるので変化に気づきやすい。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あすか

作成日：平成 28年 12月 17日

市町村受理日：平成 28年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束禁止の内部研修を行っていたが、身体拘束禁止行為の11項目について職員間で確認されていなかった。	身体拘束禁止行為の11項目に関する内部研修を行い職員全員で確認する。	外部評価後すぐに身体拘束禁止行為の11項目に関して内部研修を行った。出席出来なかった職員に関しては資料で確認した。	1週間
2	35	火災以外の防災マニュアルが整備されていなかった。	地震や風水害を想定したマニュアルを整備し、避難訓練などに活かしていく。	外部評価後すぐに地震や風水害のマニュアルを整備した。	1週間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。